



まん○タイム
きららSEX

基本CG10枚 差分総計120枚

サークル：ウメボシ工場

「ん……つく……あ。ナカ、拡げられちゃってる……
けど相変わらずこんな貧相な体に興奮するなんて
本当にロリコンなんじゃないの貴方……。全く、
なんでこんなの好きになっちゃったのかしら」



「あっ！？はっ、んああっ！ちよ……いつもより、
激しっ……！ちよ、ちよっと待ちなさひあああ！？
ダメっ、奥……あっ、あっ、はあっ、イッ——」



「ふあああああああああつ♡♡♡」



「あ……はっ……あ。……ちよつと、待ってって
言ったのに貴方……しかもこんなナカ出しして。
全く、こんな身体でも生理あるんだから
……赤ちゃんデキたら責任とりなさいよね」



「っ……あ、はあ……。相変わらず太っ……。
立ちバック、だっけ……。？なんか顔見られる
より恥ずかしいかもこれ……」

ト……♡

ストップ

いん
やん

いん



「んあつ、あん♡これっ、いつもより深っ♡
奥までっ、届いちゃってるっ♡ひああっ♡
もっど、もっど来て……っ、気持ちいい
とこ……もっど突いてえ♡♡♡」

んあつ♡

あつ♡

んあつ♡



「イクっ、イっちゃ——
んああああああああ♡♡♡」



「はっ……はあ……♡すご……ナカ、あっつい
ちよっとヤバいかも……こうやって後ろから
突かれるの、ハマっちゃいそうだよお……♡



「あばばっ、ほ、ホントに挿入っちゃって……
こ、これ、ほんとに資料になるんですかあ!？」

「大丈夫よかおすちゃん! そのままそのままー!
やっぱり生は迫力が違うわー♡♡♡」

「ひうっ、あばっ、おっきいの、奥、届いてえ……！
琉姫さっ、わ、わらひ、も……ダメえ……♡♡」

「うん、その顔いいわよかおすちゃん！ 挿るわー！」
・「かおすちゃんすご……これが本当のエッチなんだ」

「うにゃあああああああああ！！」



うにゃあ

うにゃあ

うにゃあ

うにゃあ

うにゃあ

うにゃあ

うにゃあ

「あうう……ナカで〇〇さんの精液はねちゃってます……
あ、赤ちゃんデキちゃったらどうしましょう……」

「はあ……ありがとねかおすちゃん、いい資料が
たくさん手に入ったわ。すっごくエッチだったわよ！」

「くっくっくっ……！シャミ子があんまりにも
じっれたいのでな……余がこうして——
ってちょっと待たんか貴様！？ピストン早っ、
少しは手加減せんかあー！」



「くっ、すまんシャミ子！バトンタッチだ！」
「ヴえ！？え！な、なんなんですかこれー！？
ふええ！？〇〇さんどうしてこんなことにっ！
あっ、ちょっと待——腰っ、止め——



「うにゃあああああああつ♡♡♡」



「あうう……ナカ熱い。おまたジンジンします。
なんでこんなことに……なんか〇〇さんも
巻き込んだみたいですいませんです……。
で、でも、こうなっちゃったら気にしません！
ヤケです！もうこのままヤっちゃいます！」



「んっ……はあ……。ぜ、全部挿りました……。？
知識はありましたが、やっぱり体験するのは全然
違いますね。あとその……凄く恥ずかしいです」



「ひあっ!? ちよ、ちよっと待……はげしっ……
奥っ……届いて、頭痺れちゃ……ふああっ!
ダメです……っ、もう、イツちゃい、あ——」



「あっ♡はっ、ああああああああっ♡♡♡」



「はーっ……あっ……はあ……。ナカ、熱い……
え……?可愛かった……?~~~~~っつ///
忘れて下さい……お、お願いしますから……」



「ん……はあ。さ、流石に見られながらは私も恥ずかしいなー。紅愛、ホントにこれ特訓になるの？」
「いーからいーからー。ほら、ちゃっちゃと腰動かすー！」



パンパン

パンパン

はぁ

はぁ

はぁ

はぁ

はぁ

「はっ、あん、はあ……っ♡な、なんか
いつもより刺激つよ……っ！深いところ
届いてっ！ヤバ……も、ダメ、かもお！」



はっ

はあ

はあ

はあ

はあ

「んあああああああああああああ！」



「はあ……はあ、はっ……あ♡これ、思ったより足腰に来るけど、気持ちいい……♡
紅愛の言う通り、いい特訓になるかも……
よっしゃー！なんか燃えてきた！このまま
もう一回続けるよー！」



「えへへ……泊りで二人しかいないとは言え、
やっぱり会社でこういう事するの、いつもより
ドキドキしてくるなあ……。んじゃ、秘密の
息抜き、済ませちゃお……。♡」



「んあっ、はっ♡ずんずんキてる……っあ♡
相変わらずっ、弱いトコばれちゃってる……！
もっと、もっとキて！乱暴にシテいいからあ！」



あっ♡
あっ♡

あっ♡
あっ♡

たぽん♡

あっ♡
あっ♡
あっ♡

「んああああああああつっ♡♡♡」



「はあ、はあ……♡せーえき、ナカで爆発してる♡
ん～～♡この感覚、すっかり好きになっちゃった
なあ……。大丈夫大丈夫、今日は安全日だから
だから……その、第二ラウンド、しない？」





「んっ……えへへ、〇〇君と一つになっちゃった。
うん……ちょっとおっきいけど大丈夫だよ……
だ、だから……その、好きに動いていいよ♡」

ズッ

んっ

ヌッ

んっ

「あっ、ひあ、んあっ！ナカ……奥、届いてっ
うんっ、大丈夫……だからっ、もっと動いてっ
んら、はっ、も……ダメ、イっちゃ」





「ひああああああああああつ♡♡♡」

はぁ♡

はぁ

はぁ

はぁ

はぁ

はぁ

「はあ……はあ、は……せーえき……溢れてる
もー、出し過ぎだよ……。一応安全日だけど、
赤ちゃんデキたら……責任、とってね……♡」



「あ……ん、えへへ……挿っちゃいましたね
だ……大丈夫です、ちょっと痛いですが、
〇〇さんの好きに動いてください……♡」



「んあっ、はうっ♡ひあぁっ♡奥、届いてっ
頭の中、ジンジンって♡痺れちゃ……♡
すみませ……私、もう、ふぁぁぁっ！」



「はわあああああああつ♡♡♡」



「は……あつ。相変わらず、おおき……
す、少しは小さくできないのか全く。
ほら……私は大丈夫だから、その、
……好きに動いてくれ」





「んあぁっ！？はっ、あうっ、ひゃん！
こ、こらぁ！好きに動いていいとは
言ったが、激し……ふぁぁぁ！？
ま、待てっ！あっ♡あぁぁ♡♡♡」

「イクラクラクラクラ♡♡♡」



「はー♡はー……♡あう、溢れてる……
遠慮なく出して。こ、子供がデキたら
どうするんだ全く……♡
そうになったら絶対責任取れよ……♡」

